

第6回 枚方市教育委員会協議会 会議録								
開会	平成28年6月28日午前10時00分				閉会	平成28年6月28日午前11時37分		
日程番号	案 件							
1	平成28年度枚方市小中学校教頭候補者特別選考について							
出席委員	議席番号	氏 名		欠席委員	議席番号	氏 名		
	1番	奈良 渉			番			
	2番	徳永 博正			番			
	3番	吉村 雅昭			番			
	4番	橋野 陽子			番			
	5番	神田 裕史		番				
説明員	管 理 部 長		君家 通夫	説明員	教育環境整備室課長 (教育施設保全担当)		黒川 清	
	学 校 教 育 部 長		若田 透		教育環境整備室課長 (学校規模等調整担当)		兼瀬 和海	
	社 会 教 育 部 長		中路 清		学 校 給 食 課 長 (副参事級)		前村 卓志	
	管 理 部 参 事		俣野 浩一		教 職 員 課 長		大船 純之	
	管 理 部 参 事 兼 次 長 兼 教育環境整備室長	益田 正治	兒 童 生 徒 支 援 室 課長 (生徒指導担当)		狩野 雅彦			
	管 理 部 参 事 兼 次 長	森澤 可幸	学 務 課 長 (副参事級)		早崎 由子			
	学 校 教 育 部 次 長		高橋 孝之		教 育 推 進 室 教 育 指 導 課 長		位田 真由子	
	学 校 教 育 部 次 長 兼 教 育 推 進 室 長		花崎 知行		教 育 推 進 室 教 育 研 修 課 長 兼 教 育 文 化 セ ン タ ー 館 長		喜多 一友	
	社 会 教 育 部 次 長		片岡 政夫		社 会 教 育 課 長		奥野 美佳	
	社 会 教 育 部 次 長		山口 俊也		放 課 後 子 ど も 課 長		精木 孝充	
	社 会 教 育 部 次 長 兼 中 央 図 書 館 長		藤丸 知子		文 化 財 課 長 (副参事級)		鈴江 智	
	兒 童 生 徒 支 援 室 長 兼 課 長 (支援教育担当)	田辺 元美	ス ポ ー ツ 振 興 課 長		五島 真紀子			
	管 理 部 副 参 事		寺西 光治		中 央 図 書 館 副 館 長 (課長級)(サービス担当)		松井 一郎	
	教 育 総 務 課 長 (副参事級)		小菅 徹		中 央 図 書 館 副 館 長 (課長級)(企画担当)		中道 直岐	
	教 育 環 境 整 備 室 課 長 (教育施設整備担当)		藤井 禎人		教 育 総 務 課 係 長		中島 隆	
				記録	傍聴の人数		0人	

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会いたします。

まず、委員それぞれの活動について所感などを報告したいと思います。

それでは私から報告をさせていただきます。

私のほうではただいま評価育成システムに係る校長面談を実施をしております。校長には今年度の設定目標について、特に力を入れてやろうとしていることを伺っているわけでございますが、その中で学力向上についてどのように取り組むのかということについても、事前にそのことをお聞きするというようなことで通知をしていましたところ、何らかの資料を持参されて、これまでの取り組みの実績であるとか、あるいは成果、課題等を説明する方もいましたし、また資料等を持たずに口頭で語られる方もいたわけでございますが、学力向上に向けた明確なビジョンをきちっとお持ちの方と、そうでない方もいらっしゃるというようなことを思いました。

それと、これは少し驚いたことだったんですが、例えば職員会議のあり方等を始め、学校の組織体制が枚方の20年も前の姿の旧態依然とした形がそのまま引きずっている学校もあるというようなことで、早急にこういったことについては解決をしなければならぬと思っています。指導主事が学校訪問をしているわけですが、学校の実態把握については、学校を見る確かな目を養っていくというようなことが非常に大事なのではないかなと思います。実態の把握の精度を高める、こういったことが必要である、今いる校長やメンバーで初めてその学校の実態がわかるということでは厳しいと感じました。

次に、先日、中学校給食の様子について、2校ほど回ったわけですが、2校とも環境美化に努めていて、学校の学習環境を大切にされておられるなというようなことがわかりました。

そういう教育環境を整えていこうとなさっているところは、いろんな面で教育活動も盛んなのでしょうか、とりわけ私が感心したのは、今回給食ということで視察に行ったわけですが、配膳の担当ということで教職員が甲斐甲斐しく動いていたということです。あるいは係りの生徒も慣れた様子で配膳し、給食を取りに来たりして、後片づけについても段取りよくしておりました。

食事の様子で気になることでは、どの程度の喫食率かというようなこともあるわけですが、私としては菓子パンを食べている子どもがどの程度いるのかなというようなことで、注意深く見ていたのですが、ほとんど、皆無とは言わないけれどほとんどいなかったというようなことで、これは各学校の指導も随分いき届いているなと思いました。

ただ、皆無ではないということでございますので、このように菓子パンだけで済ませる生徒に、どのようにして中学校給食を喫食させるかということも課題かなと思いました。

6月25日の土曜日でございますが、第51回の交通安全の子ども自転車大阪大会というのが守口の市民会館で開催されました。交通法規の学科試験であるとか、自転車の試験などが実施されていたようでございまして、本市からは枚方警察署管内の代表として、伊加賀小学校のチームが出場し、団体総合で3位となって、大阪府交通安全協会会長賞を受賞しました。個人総合の部でも3位になり、大阪府警察本部賞を受賞しています。チャレンジの部というのもあったようで、これは2位になっております。

ちなみに大阪府内で60チームが参加していたということでございますので、随分頑張ってくれ

たなどいうことで喜んでおります。

4つ目は、今年度4月から蹉跎生涯学習センター、蹉跎図書館も併設して居るわけですけども、それと牧野の生涯学習市民センター、これは牧野図書館が併設されているわけですけども、ここに指定管理者制度が導入されたということで、センターと図書館の一体管理運営による市民サービスが始まっています。開館日や、あるいは開館の時間を延長して、利用者の利便性の向上を図っているというようなことから、利用者には好評を博しているということでございます。また、夜間の利用者も増加してきているということでございます。

平成30年度からは、あと4つの複合施設に指定管理制度を導入するというようなことを目指しているわけですが、今実施されている2施設の検証をしっかりと行う中で、さらに改善を図っていききたいということでございます。

また、平成26年度から既に中央図書館と学校教育部が連携をしながら、3つの中学校に中央図書館の職員を学校司書として派遣配置をしているわけでございますが、今年度から10の中学校区に事業拡大をしております。各中学校区に配置された学校司書が核となって、市立図書館と学校図書館との連携を強化しながら、子どもたちの読書関係の改善と学力向上につなげると、こういった取り組みが展開されております。

最後に、今後さまざまな事業が展開をされるわけですけども、教育委員会の施策とするこの事業が、各学校園でどのように展開されているのかという実態把握に努めるということは非常に大事なことなのではないかと思っています。

そしてまた、それぞれの学校の取り組みを検証させるというようなことが、今後教育委員会としての課題になってくるのではないかなというようなことを申し述べておきたいと思っております。以上です。

続きまして、徳永委員、お願いいたします。

○徳永委員 オープンスクールのことを報告したいと思います。

5月から6月にかけて、杉中学、磯島小学校、桜丘小学校、長尾中学校、香里幼稚園、伊加賀小学校の6校園へ参りました。まとめて感想などを申しておきたいと思っております。

土日もその中に含まれておりますので、その日などは特に多くの参観者でにぎわっていたことは今までと変わりませんが、そういうときでもおおむね子どもたちの様子はそれほど後ろにいる保護者を気にするという気配もなく、落ちついて授業に参加していたと思います。

保護者の中にはなかなか教室の中に入りきれなくて、廊下に立ち、並んで様子見されているという方がおられたのですけれども、中には場所があいていたのに入れない方もおられて、もったいないなと思ったりもいたしました。

ただ、以前せっかく来ておられて、教室の中へ入っていただいても、顔見知りでしょうか、保護者同士が何か喋っていると、私語している気配というようなこともあったりしてはいたけれども、私もそのような場面を見たことはあるのですけれども、今回特にその6校についてそのようなことはなく、皆さん熱心に参加しておられてよかったなと思っております。

教員についてですけども、若い教員が多くなっていて、それぞれ皆工夫してその場に臨んでいまして、そういう姿を見て安心いたしますし、なお年配のベテランの先生方の授業は、やはり

さすがだなと思わせるものが多かったですね。興味を引きつける、そのような姿を見せてもらいました。

校長先生方といろいろ話をしたのですけれども、校長先生の中では若手の教員の育成ということについてのご苦勞の一端がうかがえました。

とりわけやはり、私どもがたまに見せてもらっただけでは気がつかないようなこと等も含めて、校長先生は日常の様子を見ておられますので、やはり授業改善が大切だと、このことの課題の深刻さということを深く考えて、とりかかっておられるという様子も見てとれました。

ある校長先生が、いろいろ工夫して楽しく授業をしているという試みはいいのですが、ただ子どもたちに下品な話題をおもしろおかしく提供してということになりがちなのが気になる。本当の楽しい授業、そういう楽しさというのをもっと本当に追求してほしいと言っておられたのが印象的でした。

小学校でも中学校でも引きつけるというのは、確かに難しいと思います。おもしろい話題を入れるということも当然あると思うのですけれども、それからどういうところにつながっていくのかということ、子どもたちに何か感じさせるような、そういうものであってほしい。そのときだけ楽しくて、わっと笑って終わるということだけではないような楽しい授業を追求してもらいたいと同感いたしました。

さて、このように、せつかくオープンスクールをやっておられるのですけれども、見に来られた保護者などから学校に関して、あるいは授業そのものについて何か意見とか感想などは寄せられてくるのでしょうか。きっといろいろ感じられることがあって、その中には学校が汲み取っておいたほうが良いこと、おかねばならないこともあると思います。

保護者はもともとオープンスクールに限らず、平素から子どもの様子も気にかけておられて、子どもから学校であったことや授業、その他についていろいろ聞いておられる方があると思うんですね。安心されている方もおられるし、中にはこれは少し困ったなど、何とかならないかというように気にかけておられることもあると思います。枚方のことではありませんが、そういうことを耳にしたことが、もちろんあります。

でも、保護者の立場でなかなかそういうことをうまく伝えていくことは難しいのが現実なんです。いろいろな方がおられて、いろいろご意見を言われる方もありますけど、かたやなかなか思っただけでも言いにくいと思っただけでむしろ言ってもらえる方も実は割とたくさんおられるんですね。

そういう声を、どのようにして汲み取っていったらいいのかということがやはり課題であると思っただけのですけれども、枚方の場合はどのようにされているのでしょうか。ともかくそういう保護者の声の中で、やはり汲み取るべきもの、耳をすませてそこから受けとらねばならないものというのはもちろんありますので、うまく捉えていただくように、そのような工夫はもちろん校長先生自身にはしていただいて、学校教育の改善につなげていただけたらなと思います。

最後に、その中でも、中学校に2校行っておりますけれども、もともと公開授業ないしオープンスクールも中学校ではあまりたくさん保護者の方が来ておられることはないんです。それも当たり前といえば当たり前で、小学校とは違うわけですが、しかし中学校教育の充実改善ということのためにも、やはり保護者の方には関心をお持ちいただきたいし、学校側にもそのような機会

は難しくなってきたと思いますけれども、うまく保護者の方にアピールをして見に来ていただく機会を確保していただきたいなと思います。以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

吉村委員、お願いします。

○吉村委員 私からは、この7月号の広報ひらかたの中にもPRされております、枚方市立野外活動センターのことについて少しだけ述べさせていただきたいと思います。

実はこの野外活動センターの利用に関して、私が勤務している大学等の子どもたちの地域連携の中の夏休みのキャンプというところで、施設をあちらこちら探しておりまして、私には相談があったので、ぜひ一度声をかけたらどうだということで、8月の初旬なんですけども、利用をするという方向で話を進めてまいりました。

大学院生が野外活動として子どもたちのいろんなプログラムを考えて、主に熊取や泉南など、大阪の南のエリアの小学校の1年生から6年生まで約50名くらいを募集し、そして引率をしてそこで活動をするという企画がありまして、その件で6月2日に野外活動センターへ先生も一緒に行ってくださいということで、私と院生4名、職員2名、合計7名で、私は一応オブザーバーといえますか、打ち合わせや、施設の案内、見学などを一緒にさせていただきました。時間は午後からだったのですが、最終的には打ち合わせを含めてですが3時間半くらいかけて、しっかりと施設を見せていただきました。

さまざまな施設のことや、実際に登山をするところ、フィールドアスレチックをするところについて、元気な大学院生ですで行ってみたいということで、登山班と、それからフィールドアスレチック班にわけて、そういうところについても、勤務時間を超えてまで、担当の野外活動の教育専門嘱託員の方には本当に親切に、説明を含めてお付き合いいただきました。

特に、ステラホールを1つのメインにされていると思いますので、そこを私も宣伝をしております、イメージはもう少し規模の小さいものだとして院生は考えていたようなんですけども、行ってみると本格的な、60センチの反射望遠鏡も喜々として覗きながら、そしてこれが子どもたちに夏の1日にこういうようなものを見せてもらいながら、なおかつ寝食をともにするという経験というのが貴重なものであるということで、プログラムが初め考えていたものからどんどん広がって、先生、こんなこともできる、あんなこともできるということで、嘱託員の方と話をする中で、非常に前向きに、ではこのようにすればもっとよくなりますよとか、現場を知っておられますので、あれほどの広大な施設の中でのさまざまな利用法とかいうことについて説明をしていただきました。帰りの車で院生にどうだったかと聞くと、あそこまで丁寧に説明をしてもらえとは思わなかったと、とおりの話の中で見るだけの見学ということだというイメージで、具体的な打ち合わせだけだということも考えていたようなんですけども、時間はあまり気にせず、丁寧にさせていただいて、感激しましたと話していました。

あるいは、天候のいいときに撮られている土星の写真等を実際にいただいたりということもありましたので、嘱託員の方々は校長、OBとかいろいろな方々が関係をされている、あるいはこの野外活動センターについては、本当に我々も関心を持ちながら多く利用させていただくためにはどうしたらいいのかを気にしながらいつもおりましたので、今回そういう遠いところからでもア

クセスさえうまくいけば利用が十分できるんだという形で、宣伝について、今回広報ひらかた等にもいろんなプログラムや、アイデアというのがあると思うのですが、広く大阪府内、あるいはアクセスのいいところからバスで来て、利用できますよという形がついていけば、地元の小中学校はもとより、さまざまところでまた利用について拡大していけないかなという感想を実際に学生たちや職員が申しておりましたので、ぜひとも何かヒントにしていただきまして、この活用について積極的に進めていただけたらという感想を持たせていただきましたので、今日少しお話をさせていただきました。以上です。

○奈良教育長 橋野委員、お願いします。

○橋野委員 今日はまず初めに中学校給食のことについてなのですが、保護者の方々にとっては朝、時間に少しゆとりができたように思います。温かいもの、冷たいもの、栄養バランスも考えてあり、バラエティに富んだ給食を毎日楽しくいただいているように感じました。まだ始まったばかりなのですが、引き続き喫食率の向上に取り組んでいただくようお願いしたいと思います。

次に、6月の運動会、体育祭は新学年、新学期を迎え、クラスの団結力を高めるために、そして熱中症のリスクも考慮し、取り組んでいただければと思います。ただ、天候が読めず、子どもたちや働く保護者の方々のためにも振り替えの日は改良の余地があるのではないかと感じました。

中学校においても子どもたちの体力に合わせた実演種目を増やしたほうがよいのではないかなと感じました。以上です。

○奈良教育長 神田委員、お願いします。

○神田委員 まず、学校規模等適正化に関する説明会が一昨日の6月26日から始まったので、その日程表をいただきました。教育長からも担当課からご苦労をかけるということをお聞きしておりましたが、担当の方々は資料の準備や、説明会も大変ご苦労さまです。7月末までに11校の説明会があるということですので、長丁場になりますけれども、よろしく願いいたします。

今日は4点ほど時間が限られた中でお話ししたいと思います。

1点目はオープンスクールについてですが、土曜日授業を中心に行かせていただきました。小学校6校と中学校4校を訪問いたしました。このような公開授業を行うことによって、保護者や地域の方々も子どもや保護者の様子を知って、学校をよく知っていただくいい機会になったと思っています。

小学校と中学校の授業の展開の違いはありますが、いずれにしても教師の指導力が魅力ある授業の大きな要素であることを改めて思いました。校長先生に案内していただいて回っていったら、あの3年生何組の何々先生はいかがですかと尋ねたところ、やはりいい先生ですとおっしゃいました。おそらく保護者の方もご存じだと思います。そういうことを含めて授業力を高めていくことがさらに大事だと思いました。

また、教育環境、物的、人的がありますけれども、今の人的な分とは別途、物的な教室やトイレ、校庭なども見ますと、やはりきれいな学校で気持ちよく学校生活を送ることができているように思いました。ドライ方式が中学校でも大分進んでいて、廊下を回りながら拝見しまして、かなり学校施設を改善していただいているなどということも改めて感じました。今後も授業の質や、教育環境の整備に取り組んでいただけたらと思っています。

また今後、オープンスクールだけでなく、研究授業も公開されると思いますので、案内いただきましたら、できるだけ参観したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

2点目は私の読んだ本について、去年から思っていたことも含めて話したいと思います。

2点目は、少人数学級と少人数指導ということで、実は皆さんもご存じかわかりませんが、「学力の経済学」という本がちょうど1年前に本屋さんで並んでいまして、著者が教育経済学者ということで、教育に経済学というのをあまり聞かなかったもので興味があって読んでみました。

この本は中室牧子さんという方が書いています。慶応大学の准教授をされている方なのですが、総合政策学部で、アメリカのコロンビア大学で博士号をとって、日本銀行や世界銀行で実務経験を積んでおられて、いま准教授をされています。

この中にいろいろとおもしろいタイトルがあるんですけども、第1章に他人の成功体験は我が子にも生かせるのかとか、第2章、子どもをご褒美で釣ってはいけないとか、おもしろいタイトルにつられたんですけども、第4章は少人数学級には効果があるのか、というタイトルでした。今、4年生まで少人数学級にしているわけですけども、35人学級は平成23年度から公立の小学校の1年生に導入されているわけです。大阪府は2年生まで、枚方市は4年生までだと思うんですけども、財務省はいじめや不登校の発生割合は変化していないと指摘して、この40人学級の復活を主張したわけですね。

この著者は、そもそもいじめや暴力行為、不登校の件数の変化する要因は、学級当たりの児童数以外にもさまざまな要因があるから、それはどうかということをおっしゃっているんですけども、文部科学大臣はその財務省に対して、きめ細かな指導には35人学級が望ましいと断定していると。国際的に見ても日本の教員の多忙感が強く、これでは極めてきめ細かな指導はできないだろうということ、引き続き必要だということを主張したわけです。

この中室准教授は残念ながら日本では実験によって教育政策の効果測定はほとんど行われていないと言います。ですから、この著者は国内外で実施された少人数学級に関する研究成果を整理して、日本の少人数学級政策、そして教育政策面について考えておられます。

アメリカで実施されたスタープロジェクトというのが載っています。1985年から1989年の30年前にテネシー州の政府がやっています。アメリカの少人数学級というのは、20人以下くらいを言っているのですが、スタープロジェクトでは少人数学級の生徒数を、13人から17人くらいと、22人から25人くらいでやったわけです。学力を向上させるかということをやったわけですね。これについては一定上昇の効果はある。しかし他の政策と比較すると、費用対効果は低い政策であると。

しかし、日本のように35人学級では、その国については進めていく必要があるということは、当然あるんですけども、このデータを見ますと、15人から25人くらいだとかなり効果があるわけですね。そういうこともあるので、そこまでは予算も無理ですが、そういうことを含めて、少人数学級には効果があるけれども、やはりそれぞれ検証していかなければならないということです。

一方、お金をかけないで学力を向上させるものは、世界のデータの中で1つあったのが、教育

を受けることの経済的な価値について、生涯どのようなメリットがあるということを親に話し続けていくと子どもの学力は上がる。これが一番効果がいいというデータがあるようです。同じテネシー州では5か月でぐっと上がった。

やはりそうすると、保護者のかなり教育熱心、いろんなバックデータですかね、そういうものが必要であるということかもしれません。このような参考になる部分で、日本の教育には当てはめられませんけども、そういうことも35人学級をまず進めていく中で、内容を充実していく必要があると思います。

そこで、枚方市の少人数指導を今進めているわけですがけれども、少人数学級よりも少人数指導が効果があるというのは前提として著書に書いておられるのですけれども、それもただ単なる少人数指導ではなくて、習熟度別になると効果があるというようなデータがあります。そこでも枚方市もかなり進めておりますが、枚方市のデータをお聞きして、今、少人数指導の加配教員が国、府から105名入っているんです。小学校54名、中学校51名、小学校、1人配置の学校は36校で、2名配置が9校。中学校は2名配置が6校、3名が13校あります。

私は現場にいたときからなぜ中学校はこんなに入っているのか、小学校を複数にしてほしいという話をしたのですが、指導のためですということで、ずっとこの状態が続いています。中学校の指導が大変だということも理解はできるのですけれども、この少人数加配の指導教員をより効果的に使っていくのは私は大きな意味があると思っています。ですから、学力テスト、学習状況調査等を踏まえて、今年度も配置されたのだと思います。

ですから、やはり今年度の、先ほど教育長がおっしゃってましたけども、学力向上等の学校の取り組み、実態を踏まえて、やはり適正な配置について、さらに来年度、状況把握をしていただきたいなと思います。

3点目は、この著者が書いている教育政策と費用対効果の話についてですがけれども、今、海外の教育政策においては、まず学力の上昇に教育政策の目的を明確にして、それを実現するためにどのような政策手段の費用対効果が高いのかという研修を行うようです。特に、合理的なアメリカなどで行われているということです。

では日本はどうかと言いますと、やはりそれが弱いということです。1つ例を挙げておられるのは、日本では平成32年、2020年までに全ての小中学校の児童生徒1人に1台のタブレット、端末を配付するという政策目標が掲げられましたが、これは平成23年、前政権時代から続いています。それは継続されているということで続いているわけですね。

これは本来政策目的ではなく、手段であるものが政策目的化してしまっているのをこの著者は言っています。私もその部分があるかと思いますが。重要なのはタブレットを配付するのではなく、何のために配付するのかということであって、この状況は効率的な予算配分、資源配分をゆがめてしまっているのではないかとこの著者もおっしゃっています。

ですから、やはり情報教育、ICTですね、先ほどの基本方策にも入っていますが、非常に大事なことです。ただ、目的と手段というのをしっかりと明確にして、予算配分をしていく必要があるということも言われています。私はやはり予算の力の中で、効果的に使えるようにしないと、子どもたちの学力の向上についてはやはり時間がかかってしまうと思います。

枚方市でも昨年度平成27年度から15校でパソコンに変わってタブレットが配付されています。この15校がどのように活用をして、どのような状況であるかということをしっかり把握をしていただいて、子どもの学力の向上に使っていただくようにしていきたいなと思っています。

最後、4点目は小中一貫教育についてです。今年度から小中一貫教育が実施されて、私も昨年度から枚方市のホームページ等いろいろ見ておりまして、委員会に入った中ではいろんな情報を得られるのですけれども、今年度から小中一貫教育になった中で、枚方市がどのような内容で、どのような方向で小中一貫教育を進めていくということが、見えにくいところがあるのではないかなと思っています。ですから、今、スタートしたわけですが、教育委員会として小中一貫教育のビジョンを私はきちっと示していく必要があるのではないかなと思っています。

昨年9月の文教常任委員会の全体会資料というのを見せていただいて、枚方市の目指す小中一貫教育について説明されたと聞いています。この資料は大変わかりやすく作成されていると思いました。これを踏まえて、学校現場がより取り組みやすいように、そしてまた保護者や市民にも枚方市の小中一貫教育を理解していただけるように、リーフレット等を作成して、今、事務局等でやっけていただいている部分が学校に浸透するようにしていただけたらなと思います。

最後に、今話しましたことは、教育長もおっしゃってましたけども、枚方市の教育大綱とか、枚方市教育振興基本計画の目標である知・徳・体の調和のとれた生きる力の育成のために、学力向上や生徒指導にかなりの予算、人的配置を枚方市は単独でされています。少人数加配は府、国の予算なのですけれども、生徒指導体制の充実、事務局の配置、また小中一貫に伴う教科担任の制度、英語教諭の配置などをかなりされています。

この部分については、教育政策の検証をより丁寧に行って、私は必要な学校に必要なものをつけていくということが大事じゃないかなと思っています。やはり平等も大事ですけども、きちっと頑張っている学校に公平に評価してつけることと、学力テストとか、状況調査でしんどい学校には、そういうものを状況を見て配置していく。だから、昨年度踏襲ではなく、検証して、難しい面もあると思います。定量的にあらわすのは難しいと思いますけども、指導主事の方も大変だと思いますが、それも踏まえて、効果的な予算、人的な活用という部分を通して、子どもの学力や意欲の向上につながるようお願いをしたいと思います。

学校現場へ出ますと、枚方市の物的なものも含めて、ありがたいなというのがあります。この間、学校訪問に行ったときに、他市に転勤した教員が枚方市はかなり恵まれているなどの感想をおっしゃっていましたので、やはり学校現場でいろいろ喜ばれると思いますので、今申しました面でいろんな第三者委員会からの検証もされてると思いますので、より内容を濃くしていただきたいなと思っています。以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、事務局からの報告案件ですが、案件1について説明をお願いします。

大船課長。

○大船教職員課長 案件1、平成28年度枚方市小中学校教頭候補者特別選考についてご説明いたします。恐れ入りますが、協議会資料1ページをごらんください。

1. 趣旨でございますが、近年特色ある学校づくり、さらなる学校教育の充実や学校の活性化

を担う管理職候補者の確保が課題となっております。本市教育委員会は、このような現状を勘案し、本市の養護教育、栄養教育、学校事務職員等から教育に対する熱意と、すぐれた組織マネジメント力や企画力を持った者を枚方市立小中学校の教頭候補者として広く募ることとしました。

そのため、枚方市立小中学校の対象者に対し、希望を募り、論述と面接による選考を実施し、合格者を大阪府教育委員会が実施する管理職選考候補者として推薦するものとして決めました。なお、今年度公募の結果、応募者はありませんでした。

2. 内容でございますが、1枚めくっていただき、資料、平成28年度枚方市小中学校教頭特別選考における、小中学校養護教諭、学校栄養職員からの候補者選考要領をごらんください。

3. 選考対象者ですが、小中学校において、現に養護教諭、栄養教諭、学校事務職員、または栄養職員の職にあり、教育に関する職に10年以上あるもの。ただし、養護教諭、または栄養教諭の職にある者については、小学校教諭または中学校教諭の普通免許証を有しないこととしました。

以上、甚だ簡単ではございますが、案件1、平成28年度枚方市小中学校教頭候補者特別選考についての説明とさせていただきます。

○奈良教育長 この件について、ご意見、ご質問等ありますか。

神田委員。

○神田委員 教頭候補者特別選考ということで、実施されたのは平成25年度からですか。

○大船教職員課長 はい、そうでございます。

○神田委員 1つは、応募があったのは、今年度はなかったわけですがけれども、今までは何名来られたんでしょうか。

○大船教職員課長 教頭に関してはこれまでございませんでした。

○神田委員 1つは、このこととは別になると思うのですが、いわゆる本市では平成23年度から平成27年度に一般行政職の方が校長として登用されました。いろいろご苦労いただいて、昨年度までで新しい職場に復帰されたわけなのですからけれども、これと直接関連するかどうかは別なのですが、その5年間のご苦労をいただいた方々が登用されたことに対しての、実施後の検証はされたのでしょうか。

○大船教職員課長 特段、検証という形ではございませんが、それぞれ現在の部署においてのご活躍ということをお聞きしまして、各学校でのいろんなご体験、あるいは何かの実績を基に現勤務先でのご経験に生かさせていただいていると把握しております。

○神田委員 1つ私の意見なんですけれども、3年前の夏季校長研修会で講演させていただいたときに、横浜市の例を出してお話しをさせていただきました。横浜市は民間と行政の方を雇用されており、その中で、初めて民間から中学校に入られて、非常に頑張っている民間の女性の校長先生がおられまして、その方を紹介させていただきました。

私もその話をする前に、その校長先生に4日前に電話をして、30分ほどいろいろお話を聞かせていただいて、ご苦労とかもお聞きしたんですけれども、横浜市のホームページ等を見ますと、政令指定都市ですから、それについての第三者委員会での検証をきちっとされています。

私は今後、これは教頭の特別選考についてなのですからけれども、校長も今の形で選考があるわけですからやはり、3名の方々ご苦労いただいた実績を今後生かす意味でも、きちっと

検証をされて、雇用する場合の参考としていただきたいなと思います。

教頭については候補者がなかったということですから、今後、さまざまな職種から雇用するということも考えられると思いますので、校長の分も教頭とも関連しますので検証等していただい
てはどうかと思っています。以上です。

○奈良教育長 ほか、ご意見、ご質問ありますか。

徳永委員。

○徳永委員 今、神田委員がおっしゃったことは全くそのとおりだと思っています。検証が必要であると思います。前々教育長のときにこのような話が上がってきたときに、こういう方々が仕事して下さったことが、市としての学校教育にどのような意味を持つかということは、時点、時点で、もちろん終わった時には当然ですけれども、それをしっかりと捉えていただきたい旨、このような公の席ではありませんけれど、申していたことはもちろんほかの委員の思いも私と同じであったと思います。

だから、それなりに事務局でも受けとめておられると思いますけれども、やっぱりせっかく今ご発言がありましたので、該当者がどのようなご経験をされたのかということなど、そのような方からお聞きしたいという気持ちがありますけど、そういうのを超えて、委員会としてこういうことを行ったことがどういうことだったのかということ捉えておかなければならないと思います。幸い事務局内に在籍している方が2名もおられますね。それぞれ違いますが、やはりそのようなご経験の話を事務局としてまとめ、それが教育行政にとってどうなのか、今後の校長選考にとってどうなのかを考えるためにも、非常に大切なことです。一般に民間校長登用とかにおいても、全部そういうことが必要とされています。枚方市がせっかくやったことで、そのとき話題にもなったわけですので、今後も我々がいろいろ管理職選考を考えるときに参考になる、あるいは学校経営を一般の校長先生方に考えていただくときの参考になるようなこと、そこから汲み取られていくということが必要ではないかなと思いました。以上です。

○奈良教育長 お二人の委員から同じご質問、あるいはご要望があったわけですが、幸いここにおられるわけですので、そういった意味ではいろんな意味で検証もしやすくなりますし、また、参考にしなければならない部分も多々あるかと思っていますので、またその辺よろしくお願
いしたいと思います。

本件に対するご意見、ご質問はこの程度にとどめます。

それでは本日の協議会の案件は以上となりますので、協議会を終了します。